

従来の考古学では見掛けの数値をもって結論されることが多くて、統計学(推計学)的検討は皆無に近かった。考古学が分類を基礎としている以上、定量化はぜひとも必要であろう。

研究会では統計学(推計学)の考古学への応用について具体例を示しながら発表を行った。

第3回(10月29日)

工藤 茂

「最近の中国事情」

1984年8月から'85年7月まで、在中華人民共和国日本語研修センターの講師として、ほぼ1年間北京に滞在した。その間、中国側の招待旅行で雲南省、広東省、福建省の一部を訪れた。その間に目撃し体験した中国の姿について、スライドを通して報告することが、私のねらいであった。

日本と中国は同文同種と言われる。しかし果してそうであろうか。タクシーを出租汽車といい、バスを公共汽車という。自転車は自行車、汽車は火車、テレビは電視。県の範囲も異なる。車は右側通行、ベッドの生活、合理的な物の考え方、以心伝心ではなく、はっきりと断言する態度など、日本と中国の間には大きな違いがある。この違いを十分に認識することが、今後の日中交流に欠かせないことと考えられる。

中国では正しいことを対^{たい}という。ここに端的に表現されているように、中国では対^{たい}であることが尊重される。奇数より偶数が好まれる。対の思想とでもいうべきものがある。

現在の中国の通貨は人民券と外貨兌換券とからなっている。原則としてその価値は同じということになっている。しかし実際には後者の価値が高く、多様な弊害を人々にもたらしている。それに気づいた国では、通貨を一本にしようとしていると聞く。

中国には日本と違って固有の文化がある。石の文化などもその例であるが、スポーツ、音楽、舞踊、演劇等、近代化の中で固有のものを捨てないでいる。

以上のことを述べてスライドの上映に入る。民俗学者の鐘敬文北京師範大教授、中国民間文芸研究会副所長林相泰氏の紹介と、中国における民俗学、民間文学研究の現状。食費1人1か月30元の中国の人々の衣、食、住の当時の状況。2連バスと自転車を柱とする通勤手段。次第に数を増してきたタクシー。晩婚を奨励し、1家族子供1人を原則とする制度の問題。小、中、高、大学という教育制度と紅領巾すなわち共産主義少年先峰隊の育成。中国における宗教の自由(宣武門内天主堂のカソリック、牛街礼拝寺のイスラム教、白雲觀の道教、廈門の南普陀寺の仏教などの信者について)。中国における観光と娯楽(天安門広場、故宮博物院、八達嶺、十渡などが日曜日には中国の人々で賑い、生活の余裕が見られること、京劇の入場料が9角以内であること、梅葆玖、梅葆玥、荀慧生、荀令業といった京劇の俳優を訪問し、旦の特色などについて話を聞いたこと)。

最後に1984年10月1日の国慶節のパレードの印象について触れる。中国は農業、工業、国防、科学技術の四つの現代化を推進しているが、この年の国慶節に国防の現代化と人々の理想実現への意欲が見られたことを述べて、この報告を締め括った。(工藤 茂)